

○編集後記

今回、パネルディスカッションやアンケート結果をまとめ、震災・原発事故を体験した私たちが実感したことを改めて振り返ってみました。

災害時に障がいがある子どもを抱えた保護者からは、避難所には行けない、他の人達の目が気になるなどの声が多く寄せられました。そこからは、我が子のことを理解してほしいという心からの願いがひしひしと伝わってきました。

その一方で、震災の経験からの気づきもありました。自分にできることは何かを考え、一歩踏み出そうとする声が多くあげられています。

この冊子を作成するにあたり、災害時の困り感実は日常生活につながっていることに気づかされました。普段から地域の人とつながることの大切さに改めて気づかされます。

障がい者へ配慮するということは、その他の弱者（妊婦、乳幼児、高齢者等）への配慮につながり、みんなが暮らしやすい社会になるということ、改めて実感しています。いろいろな気づきを得られたこと、皆さんの思いを共有し発信できたことから、この冊子の作成は大きな意義があったと思います。

ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

震災を経験して

～障がいを持った親が感じたこと～

発行日 平成26年3月20日

編集 福島県特別支援学校 PTA 連合会事務局

〒960-0251 福島県福島市大笹生字組板山 182 番地 2

福島県立大笹生養護学校

TEL 024(558)8710